

平成20年度 第3回金沢市入札制度評価委員会の審議の概要

開催日及び場所		平成20年11月21日(金) 金沢市役所 第1委員会室	
委員 (委員数5名) (出席数5名)		委員長 鴨野 幸雄(金沢大学名誉教授) 委員 春成 保(公認会計士) 委員 川村 國夫(金沢工業大学教授) 委員 坂井 美紀夫(弁護士) 委員 後藤 正美(金沢工業大学教授)	
次 第		1 開会 2 報告 ①災害復旧工事に係る発注方法及び現場代理人の取扱いについて ②総合評価方式の試行結果について 3 審議 ① 工事に係る入札・契約手続きの運用状況等 (1)平成20年度発注工事について (2)発注工事に係る平均落札率について (3)工事成績評点について (4)入札参加資格停止等の運用状況について (5)談合情報への対応状況について ② 委託業務に係る入札・契約手続きの運用状況等 (1)平成20年度発注業務について (2)業務成績評点について ③ 低入札価格対象工事に係る契約後の履行確認実施状況について ④ 委員があらかじめ抽出した工事に係る業者選考等の経緯 ⑤ その他 3 閉会	
審査対象期間		平成20年7月1日～平成20年9月30日	
抽出案件		8件	
工事	制約付き一般競争入札	4件	・弥生1丁目雨水管渠築造工事(補助)及び(単独) ・彦三町2丁目外2町地内ガス管及び配水管改良工事 ・中央卸売市場本館卸売場照明設備等更新工事 ・犀川橋専用共同橋架設工事
	随意契約	1件	・玉川こども図書館時計台移築修理工事
委託	公募型指名競争入札	1件	・平成20年度 臨海水質管理センター管理棟等耐震補強実施設計業務委託
	指名競争入札	1件	・上寺津発電所取水口等耐震診断業務委託
	随意契約	1件	・金沢西部図書館(仮称)建設工事 基本及び実施設計業務委託
委員からの意見・質問、 それに対する回答		意見・質問	回答
		別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による報告 又は意見の具申		平成20年度の発注工事に係る入札・契約手続きの運用については、概ね適正に行われていると判断する。	

別紙

総 括	
<p>各委員からの意見は、概ね以下のとおりであった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 元請から下請への工事代金について、適切に支払われるよう指導を行うこと。 2. 災害復旧工事について、速やかな施工と現場管理の徹底を図ること。 3. 総合評価方式における入札において災害協力等の地域貢献度に対してインセンティブを与えるようにすること。 <p>なお、意見の詳細は次のとおり。</p>	
意 見 ・ 質 問	回 答
<p>1 成績評点の利活用について</p> <p>○ 金沢市独自基準から国基準への統一に伴い、工事成績評点の利活用は変更したのか。また、委託の成績評点についても変更したのか。</p> <p>2 下請契約の内容確認について</p> <p>○ 下請業者への支払義務等の下請契約内容について、どのような方法で確認をしているのか。</p> <p>3 平均落札率(新旧制度比較)について</p> <p>○ 8月からの新制度への移行に伴い、落札率が上昇している原因についてどう考えるか。</p> <p>4 工事立入調査の実施状況について</p> <p>○ 低入札価格対象工事の契約後の立入調査について、契約件数133件のうち竣工したものは何件あるか。また、2回目から3回目の立入調査へ移行する場合はあるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事における業者の格付(主観点数)、優良工事表彰と指名停止、指名回数については、平成19年度工事に対する評価のため旧基準評点に基づいている。 また、入札参加条件の「過去2年間の工事成績評点」については、旧基準ということになり、「直近1年間の工事成績評点」については平成19年度中の検査については旧基準、平成20年度中の検査については新基準ということで新旧の基準が混在した形で運用している。 委託の成績評点については、変更していない。工事と基準が異なるため、関連都市への調査を含め、基準の見直しの必要性について判断していきたい。 ・ 支払方法は、できる限り現金でできるようお願いしている。下請契約締結時点において、元請業者は市へ下請人通知書を提出している。このとき、契約内容を確認しており、手形の場合は120日以内に決済するように窓口で指導している。 ・ 8月の見直しは、最低制限価格と調査基準価格の見直しであり、最低制限価格は概ね80%、調査基準価格は85%と変更になった。失格ラインの底上げにより、以前のような低い価格での入札ができなくなった。 また、土木工事については、以前から競争が激しく、かなり低い落札率となっていたが、最低制限価格と調査基準価格の見直しにより必然的に落札率が上昇してきている。 ・ 10月末で竣工した件数は、27件であり、その内11件について3回目の立入調査を実施した。調査については、全ての工事において2回目までは実施していきたい。 3回目の立入調査の実施については、2回目の立入調査の状況、例えば工程管理又は品質管理等の整備の不備が見受けられた場合について実施している。

意見・質問	回答
<p>5 災害復旧工事に係る現場代理人の取扱いについて</p> <p>現場代理人の取扱について、適正に管理できるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 概算にて330件余りの工事発注となり、業者数、現場代理人数を考慮すると、それぞれ単独での契約は困難であるため、できる限り合冊、随意契約での発注を基本としている。前述の発注形態が行えない場合においては、概ね直径1kmの円周内において同一の現場代理人の配置を認めても、適正な現場管理が可能と判断している。
<p>6 その他</p> <p>業者の主観点数やランクの格付に保有している重機を加点の対象としているか。災害等の緊急時において重機の保有している業者については、機動力があり素早く対応できる。重機の保有する会社については、経費もかかるということもあり、総合評価、ランクの格付において加点評価してもよいのではないか。</p> <p>コミュニティ防災士や避難地の借上げ等について、建設会社が地域に密着した積極的活動を行っていることに対して何らかのインセンティブを付与できないのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重機の保有については、現在加点対象としていない。しかし、重機が必要となる除雪契約は、総合評価、入札参加資格において加点することにより、間接的な形で評価している。重機を保有する業者は、緊急時において、迅速な対応が可能となるので、評価項目とすることについては、他都市の状況も含め検討していきたい。 地域貢献度について、基準を検討していき、何らかのインセンティブを与えるべきであるとは考えている。
<p>7 委員があらかじめ抽出した工事に係る業者選考等の経緯</p> <p>弥生1丁目雨水管渠築造工事（補助）及び（単独）</p> <p>○ 落札率が非常に低いのはなぜか。</p> <p>彦三町2丁目外2町地内ガス管及び配水管改良工事</p> <p>○ 落札率が非常に高いのはなぜか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本市では、本年8月1日に低入札価格調査制度を見直し、調査基準価格をそれまでの予定価格の2/3～85%の範囲内から予定価格の85%に改正し、一次審査の数値的判断基準にかかる各費用の許容範囲割合も引き上げた。本工事は7月中旬に発注されたものであり、改正前の基準による入札案件であったためであると考えられる。 当入札執行時、本市において、地元建設業者に対する緊急対策として、公共工事の早期発注に努めており、第3四半期発注予定分の内相当数を第2四半期の9月に発注したことにより、同時期に多くの土木工事が入札に付されることとなり、ガス・水道管工事を下請けする管工事業者が不足した状況であった。また、7月の浅野川水害の復旧工事入札に備え、技術者を拘束されることを嫌って入札参加を手控える業者が多かったことなどの影響で入札参加業者が少ないことを予想し、予定価格での応札をしたものと思われる。

意見・質問	回答
<p>中央卸売市場 本館卸売場照明設備等更新工事</p> <p>○ 総合評価項目のISO認証の内容とその結果について説明して欲しい。</p> <p>将来的には、項目の比重を検討していく必要があるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回の総合評価により評価しているISOは9000シリーズと14000シリーズで、環境と品質管理の両方を評価対象としている。それぞれを0.5ポイントずつの加点とし、最大で1ポイントの評価となるが、両方を保有していたのは1社のみで、他社はどちらか一方の保有であった。 総合評価については、19・20年度の結果を細かく分析し評価項目を含めて検討していきたい。
<p>犀川橋専用共同橋架設工事</p> <p>○ なぜ、入札参加業者が1社となり、落札率が100%近くなったのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発注時は鋼材価格の高騰が著しく、直接工事費に占める鋼材費の割合が高かったこと、原油価格上昇に伴い工場生産後の運搬費も高額となること、これらの理由により県外の施工可能業者が参加を見合わせたため1社の入札参加にとどまったものと考えられる。 また、落札率が高かった原因は、材料等の高騰の影響により設計価格にはほぼ近い価格でしか受注できないという判断が働いたのではないかと考えられる。
<p>玉川こども図書館時計台移築修理工事</p> <p>○ 金沢建築事業協同組合とはどのような組織か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 金沢市近郊の大工や職人により創られた協同組合で、過去にもこのような伝統的な建造物の修復を手がけたことがある。また、構成する大工の数は55人で、その内5分の1程度が金沢職人大学校の修復専攻課の修了生である。
<p>平成20年度 臨海水質管理センター管理棟等耐震補強実施設計業務委託</p> <p>○ 入札条件の下水道処理能力23,000m³/日の根拠は何か。</p> <p>処理場内における建屋の耐震補強設計であれば下水道処理能力を制約条件にしなくてよいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 臨海水質管理センターの下水道処理能力が46,000m³/日であり、この処理能力の2分の1を基準とした。 処理場全体の運転に影響を与える施設での耐震補強設計なので、将来的に安定した運転を確保するという観点から、ある程度の規模の下水道処理場での実績を参加要件とした。
<p>上寺津発電所取水口等耐震診断業務委託</p> <p>○ 落札業者である北電技術コンサルタントとはどういう会社か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北陸電力のコンサルタント部門の会社であり、金沢に営業所がある。
<p>金沢西部図書館（仮称）建設工事基本及び実施設計業務委託</p> <p>○ 公募型プロポーザルにおいて評価を重視したものは何か。</p> <p>また、この審議を行った審査委員会の構成について説明してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 建築工事費28億円に対しての設計を依頼し、各建築会社の提案内容を重視した。 審査委員会の構成は、図書館の専門者、建築の専門者、教育長、営繕課長とした。